



全国各地で記録的な大雨が降ったようです。被災した方々に心からお見舞い申し上げます。災害復興に際しEMを活用したボランティアを計画されている方は、事務局までご相談ください。さて、EMを用いた有明海浄化運動の発端になった熊本市河内川の取り組みは、ボランティアと児童、漁協など地域一体となった取り組みとして20年近く継続されており、今ではホテルの名所として知られるようになっていきます。この取り組みが、7月13日付熊本日日新聞で取り上げられましたので、紹介いたします。



熊本市・河内小の4年生 毎年発表

美しく古里 歌う、守る、

熊本市西区の河内小の児童たちが、地元住民の河川環境改善の活動や自分たちの古里への思いをつづった替え歌「河内の宝」を歌い続けている。歌にはホテルが再び飛び交うようになった地元を誇りに守りたいとの決意も込められている。



ホテル、アユ復活 住民の浄化活動 詞に

学校のそばを流れる河内川の環境は1990年ごろ、多くのごみが捨てられ、悪臭が漂うほどだった。数年後、校区婦人会から発足したせせらぎ会を中心に河川周辺の清掃やEM有用微生物群を使った浄化活動に着手。徐々に悪臭は消え、ごみが減り、川にはホテルやアユが帰ってきたという。

河内のまちはすてきな人がいっぱい。汚れた川や消えたホテルを取り戻そうと頑張った。替え歌は2008年、せせらぎ会や住民グループ「ホテルの会」の協力で環境学習に取り組んでいた当時の4年生が考えた。曲調は沖縄出身の音楽バンド「BEGIN」が作曲した「島人ぬ宝」をベースにした。

歌は毎年、4年生が替え、地元で6月に開かれるホテル祭りや近くの高齢者施設で披露している。宇佐智寿君(10)は「川のごみを気にするようになった」と話す。

河内のまちは今度は僕らが守りたい。川を照らすホテルの光がいついつまでも輝くように。歌い続ける児童らを守るせせらぎ会の中川ケイ子会長(67)は「子どもたちの環境意識を高めてくれる。この歌こそが『地域の宝』なんです」と力を込める。

(高見伸)

河川環境改善の活動や古里への思いをつづった替え歌「河内の宝」を歌う児童ら＝熊本市西区河内川。ホテルやアユも戻っている



海の日の報告が滞っているようです。集計実績は全国のボランティアの励みにもなりますので、報告のご協力、よろしく願い申し上げます。